

第2部(2) 沖縄の振興・発展に向けた社会 資本整備

観光客1200万人時代に対応できる社会資本整備を推進していくために、次に掲げる取り組みを実施しています。

▶沖縄の振興・発展に向けた社会資本整備

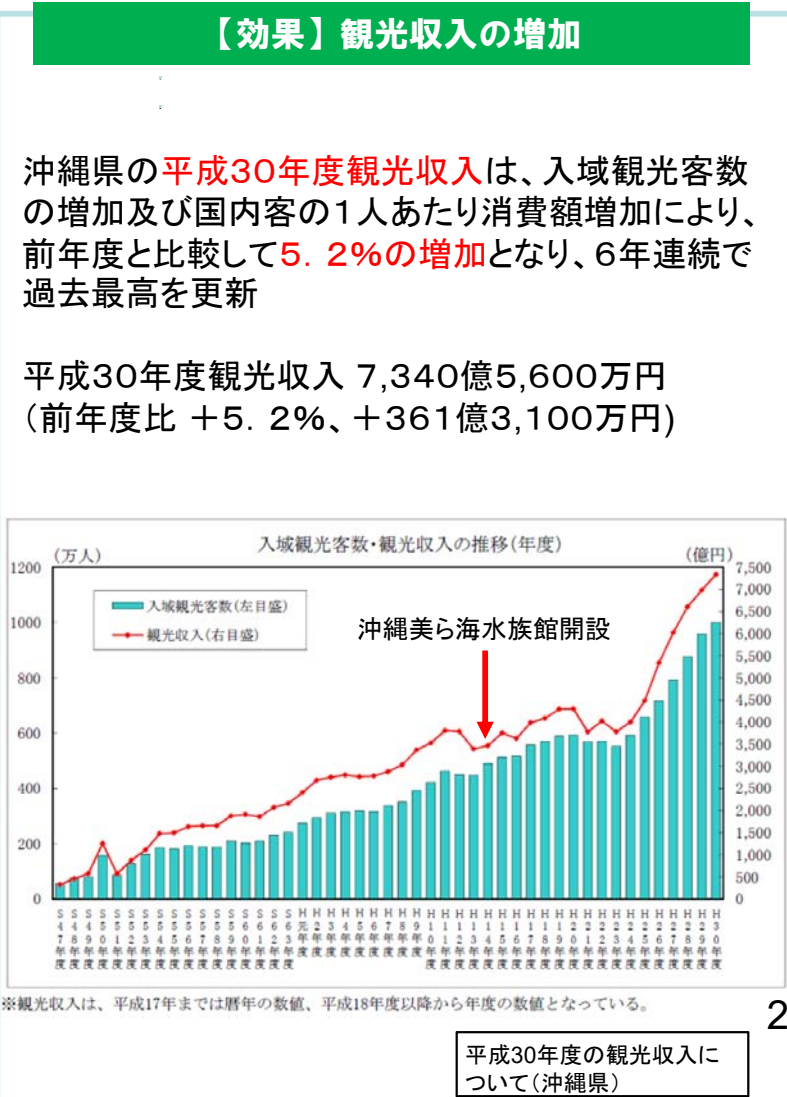
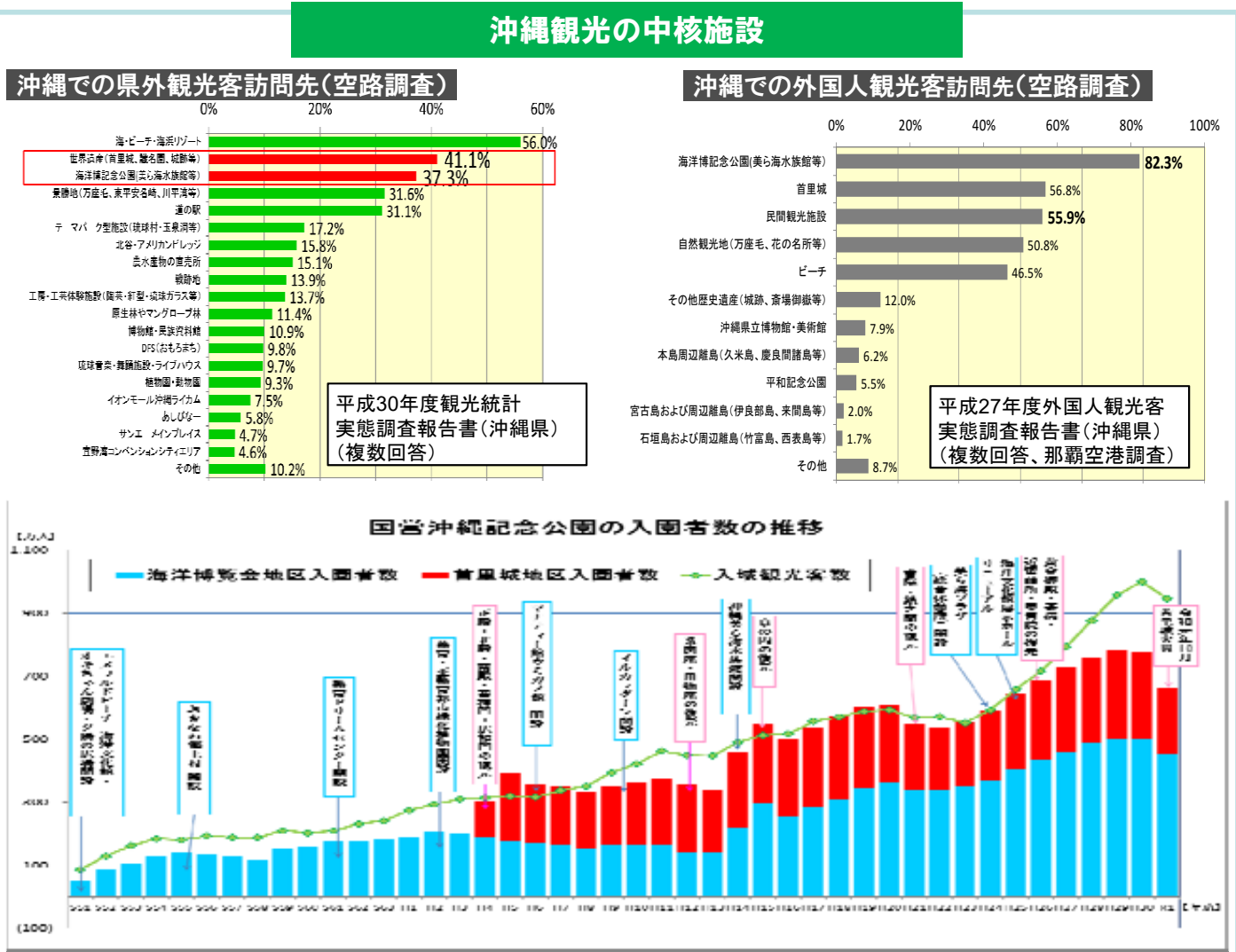
1. 観光資源の整備
2. 観光地等の地域支援
3. 交通網の整備
4. 情報発信の拡充

①国営沖縄記念公園は沖縄観光の中核施設

○国営沖縄記念公園(海洋博覧会地区、首里城地区)の令和元年度入園者数は約661万人と沖縄を訪れる県外観光客、外国人観光客の多くの方々が訪れる沖縄観光の中核施設となっている。

入園者数の内訳は海洋博覧会地区は約456万人(前年度比8.4%減)、首里城地区は約206万人(前年度比26.6%減)

○沖縄県の観光収入は、平成25年度から6年連続で過去最高を更新しており、国営沖縄記念公園は観光振興に貢献している。



①沖縄観光の拠点として海外へ積極的にPR

- 国営沖縄記念公園では、沖縄の観光振興の中核として、OCVB(沖縄観光コンベンションビューロー)等と連携して海外への情報発信を行っており、また、海外での紹介状況からニーズ等についても把握していきます。
- 海外からの取材、ロケを積極的に受け入れ、様々な海外メディアによる情報発信を通じて、アジア、欧米、豪州など諸外国での沖縄観光等のPRに貢献しています。
- 令和元年10月の火災により焼失した首里城の復元に向けて、観光振興や復元過程の公開等の地域のニーズに対応した施策を推進していきます。

沖縄観光の代表的施設として、旅行系の情報番組などに多数取り上げられています。

○シンガポールのTVドラマ

「インターネットから抜け出せない」のシーン収録
沖縄美ら海水族館にて主人公が観覧する様子を撮影

撮影：2020年1月8日



○中国吉祥航空の機内映像撮影

観光スポットとして、沖縄美ら海水族館及び
熱帯ドリームセンターにモデルを配置し撮影

撮影：2019年4月25日



○タイ大手飲料メーカーのインセンティブ旅行撮影

旅行の様子を撮影し、同会社のSNSに掲載や
TV番組で放送。

撮影：2019年9月12日



○SATI(ドイツの民放キー局)の旅番組

「Grenzenlos」の収録

撮影：2019年10月22日



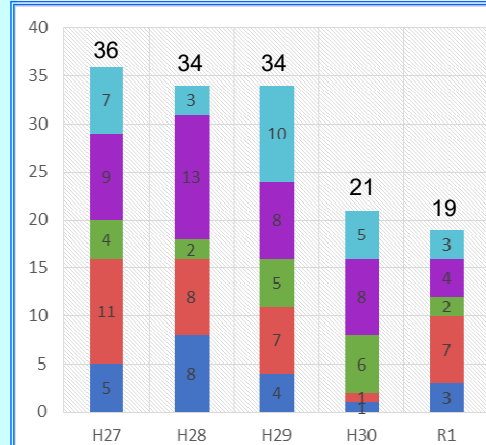
○ベルギーeen局のドキュメンタリー番組

「Op een」の映像収録

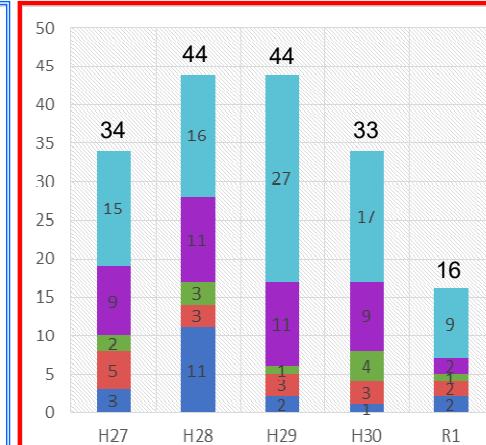
撮影：2019年6月9日



海外からの取材・ロケ(海洋博覧会地区)



海外からの取材・ロケ(首里城地区)



■ 欧米・その他
■ 東南アジア
■ 台湾
■ 韓国
■ 中国

首里城の復元過程を公開し、「見せる復興」として観光振興に貢献していきます。



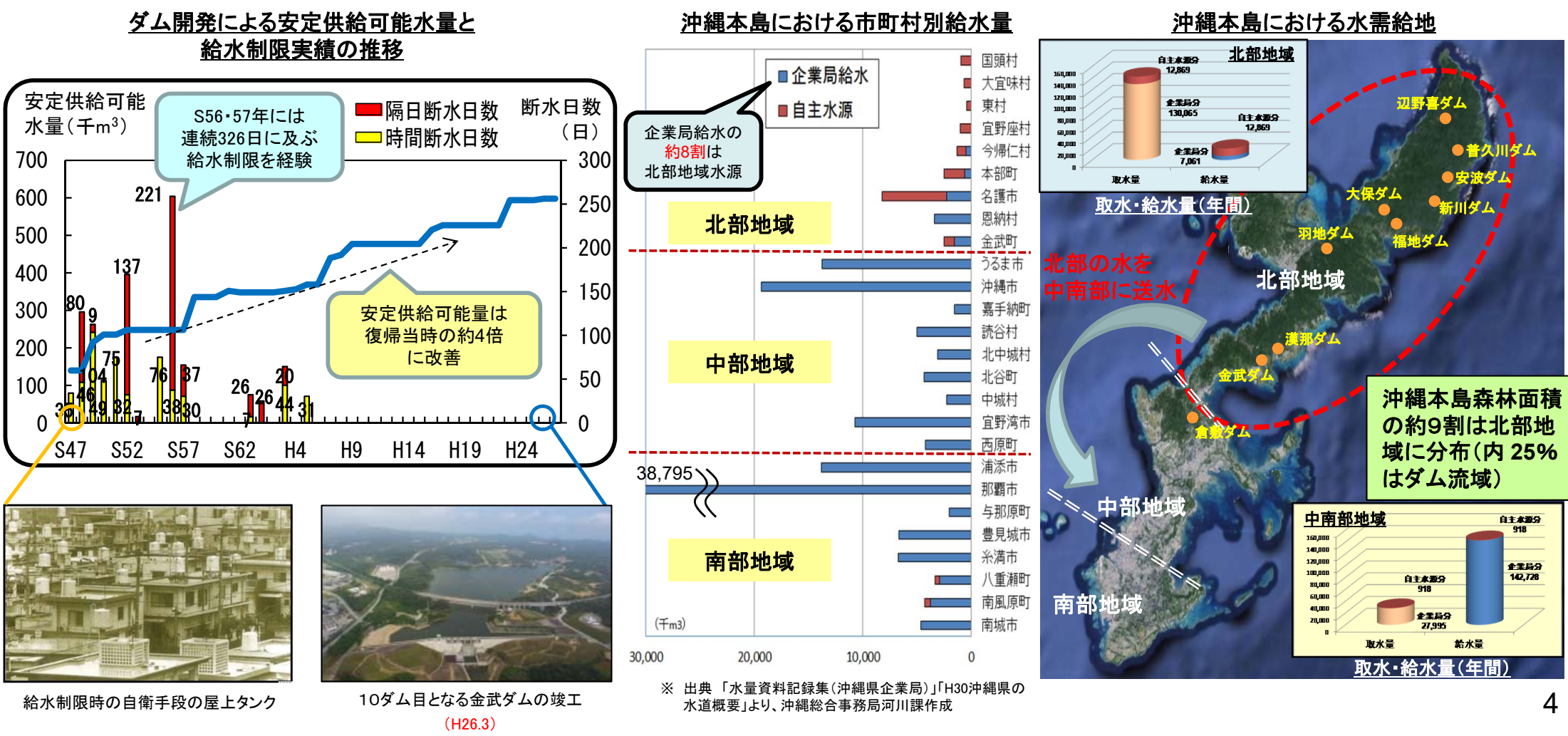
御庭(有料区域内)や首里城正殿跡等に見学者用デッキを設置。
復元に向けた工事過程をあわせて公開。



首里城正殿遺構(世界遺産)を保護する
覆屋に見学窓を設置。

1.観光資源の整備【沖縄県本島を支える北部地域の水源地】

- 多目的ダムが現在の水準まで整備される以前は、毎年のように給水制限(断水)が行われていた。復帰以降10ダムの建設を推進した結果、水事情は大幅に改善された。平成6年度以降は給水制限が実施されていない(R2年3月1日で連続給水満26年)など、沖縄県の経済発展、生活水準の向上に寄与。
- 水資源は主に北部やんばるのダムに依存している一方、消費地である中南部に人口及び経済活動が集中しており「北水南送」の状況。
- 沖縄の命の水を育むやんばるの水源地域の保全は、重要な課題。



- ダム施設を観光資源として活用した管理者メニュー、ダム湖面等ダムエリア内でNPO等が実施するメニューや民間の旅行企画など多様な取組や連携を併せ、沖縄北部ダムツーリズムと呼称。
- 流域における市町村等の観光プロジェクトと連携し、水源地やんばるの活性化を支援。



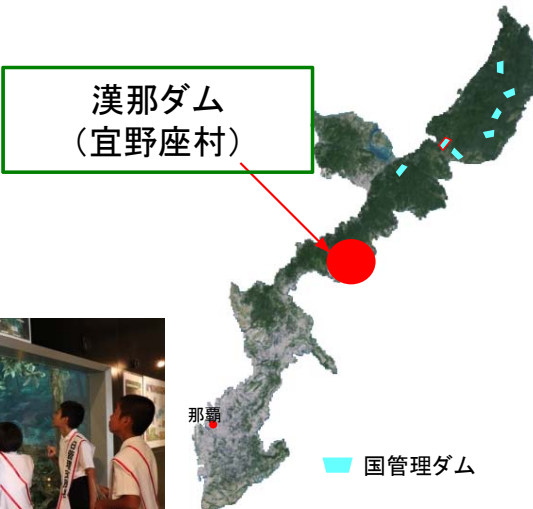
2. 日本旅行業協会沖縄県支部との連携（令和元年度の例）



- 沖縄総合事務局では、ダムやダム湖を地域の資源として捉え、水源地の自然の魅力を活かした観光、交流活動を通して森や水の大切さを体感する「沖縄北部ダムツーリズム」を推進。
- その一環として県内旅行業界（（一社）日本旅行業協会沖縄支部）のツアー企画担当者を招き、現地見学会を開催。
平成26年度から実施し、今回で5回目の開催。
- 今回は、漢那ダムやダムを含めた地域（宜野座村）の観光資源を体感して頂き、地元の自治体や観光協会とダムツーリズムの可能性について意見交換を実施。

【開催概要】

日 時：令和元年12月19日（木）
場所・内容：漢那ダム（本ダム堤体、監査廊、資料館見学）
宜野座村内（道の駅ぎのぞ、かりゆしカンナタラソラグーナ、松田鍾乳洞～
メーガー洞と周辺史跡巡り～、宜野座村立博物館）
参 加 者：JATA（日本旅行業協会）関係者（14名）
宜野座村役場、（一社）宜野座村観光協会、沖縄総合事務局



漢那ダム本ダム堤体



漢那ダム監査廊



漢那ダム魚道



漢那ダム資料館



道の駅ぎのぞ 見学



かりゆしカンナタラソラグーナ見学



松田鍾乳洞 体験



宜野座村立博物館 見学

- 沖縄県内の「道の駅」は9駅（全国1,173駅 ※令和2年3月時点）。
- 地域の個性・魅力を活かして、物産、観光、防災面で、地域活性化に貢献。

「旅好きが選ぶ！道の駅 ランキング2019 TOP30」
1位「道の駅」いとまん、21位「道の駅」かでな、22位「道の駅」許田
☆県内8駅中3駅がランクイン（旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」発表）



「道の駅」おおぎみ  道路情報・観光情報提供	「道の駅」ゆいゆい国頭  農産物直販所	「道の駅」サンライズひがし  特産品加工販売諸等
「道の駅」喜名番所  観光案内所	「道の駅」ぎのざ  イベント広場	「道の駅」許田  道路情報ターミナル
「道の駅」いとまん  お魚センター	「道の駅」豊崎  情報ステーション・休憩スペース	「道の駅」かでな  展望台から嘉手納基地一望

2.観光地等の地域支援【地域に根ざした「道の駅」】

- 「道の駅」では、そこでしか買えない、新鮮な地元特産品等を販売。
- 高齢者農家や学生との連携など、地元と密着した活動を推進（農家の育成や収入増にも貢献）。

- 「道の駅」で、**地産地消を促進するイベントを開催**
- 規格外農産物(イチゴ)をケーキに加工し販売、**農家の収益に寄与**



地産地消を促進するイベント開催
(宜野座村産業祭り)



人気商品となった地元フルーツを使ったショートケーキ

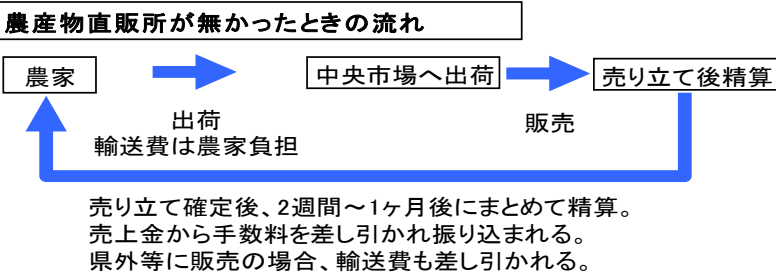


規格外農産物を加工販売
地元農家の収益に寄与

○高齢者農家支援として、「道の駅」職員による集荷作業を実施
(「道の駅」ゆいゆい国頭、「道の駅」許田)

- ・輸送費軽減及び新たな収益の場の提供
- 農家の収益が増加することにより、安定して農業に従事することが出来、農業離れの歯止めを図る。

農産物直販所が無かったときの流れ



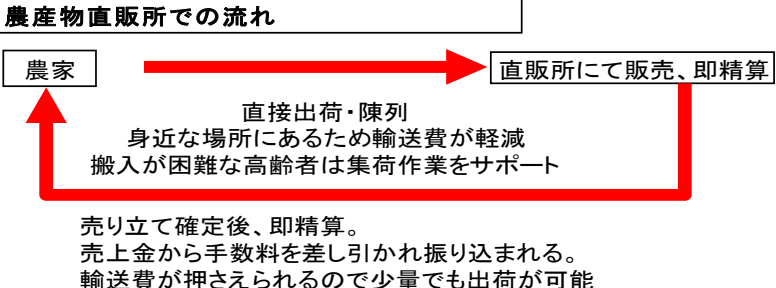
農家 → 中央市場へ出荷 → 売り立て後精算

出荷
輸送費は農家負担

販売

売り立て確定後、2週間～1ヶ月後にまとめて精算。
売上金から手数料を差し引かれ振り込まれる。
県外等に販売の場合、輸送費も差し引かれる。

農産物直販所での流れ



農家 → 直販所にて販売、即精算

直接出荷・陳列
身近な場所にあるため輸送費が軽減
搬入が困難な高齢者は集荷作業をサポート

売り立て確定後、即精算。
売上金から手数料を差し引かれ振り込まれる。
輸送費が押さえられるので少量でも出荷が可能



(パインの集荷)



(野菜の納入)

- 「道の駅」と大学が連携し、大学生のアイディアによる観光プランや情報発信手法の提案や新たな特産品の商品開発などを進める
- 地元農林高校と老舗菓子店による特産品を活用した商品開発
(ちんすこうにアグー脂を使った「きんそう」)(「道の駅」許田)



名桜大学と「道の駅」と国道事務所との連携協定調印式



(地元高校生による商品の製造と販売PR)



○地元特産品の販売(「道の駅」喜名番所を除く各駅)



(賑わう販売所)



(野菜)



(魚)



(果物)



(地元特産・マンゴー)



(地元特産・パイン)

3.交通網の整備【那覇空港の就航路線】

○国際線 16路線が就航。 → 3/29よりゼロ

○沖縄県外の国内空港との間に26路線が就航。

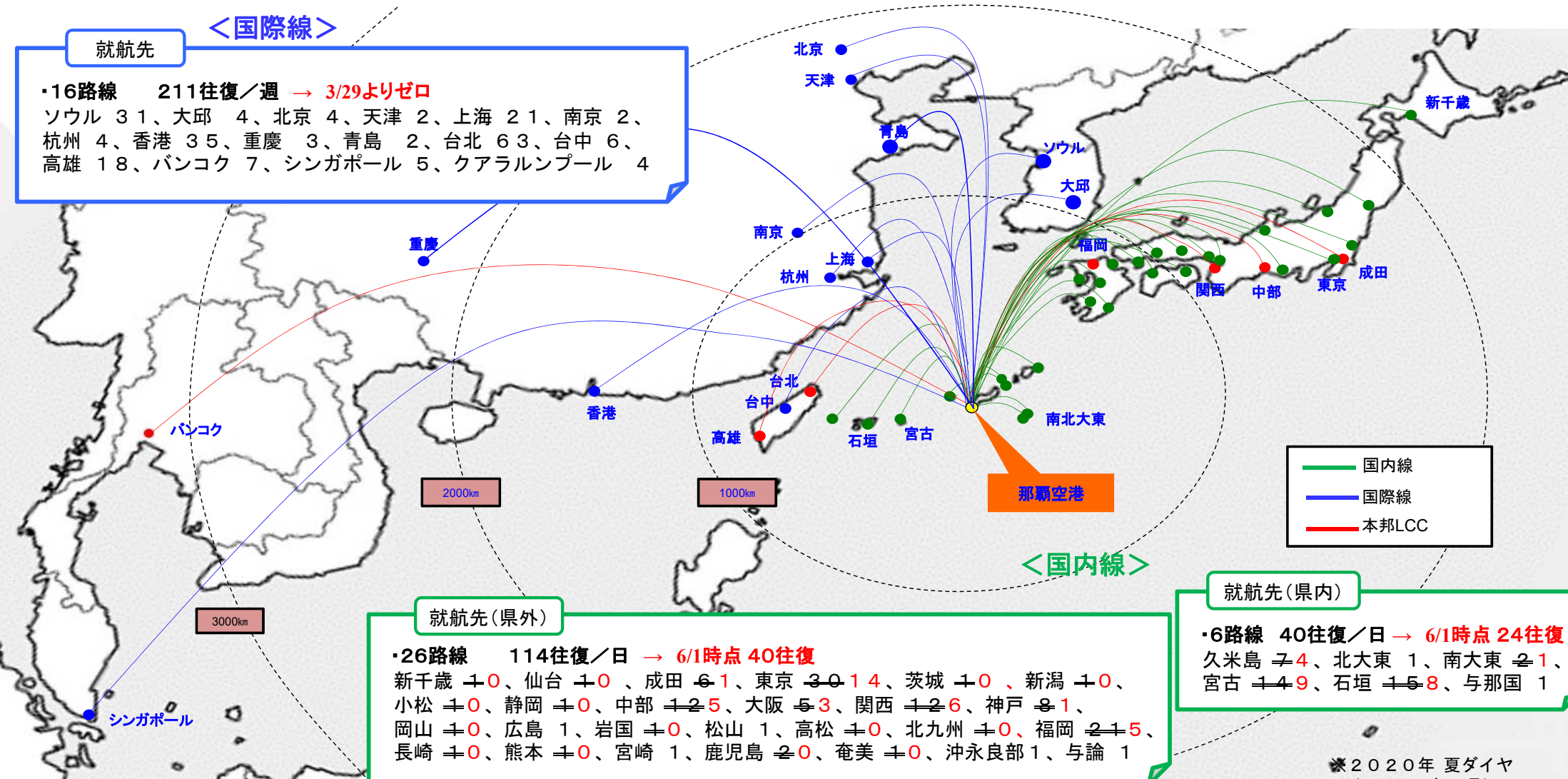
○沖縄県内の拠点であり、県内離島との間に6路線が就航。 ※新型コロナウイルス感染症等の影響があり、大幅な減便が発生

<国際線>

就航先

・16路線 211往復/週 → 3/29よりゼロ

ソウル 31、大邱 4、北京 4、天津 2、上海 21、南京 2、
杭州 4、香港 35、重慶 3、青島 2、台北 63、台中 6、
高雄 18、バンコク 7、シンガポール 5、クアラルンプール 4



<国内線>

就航先(県外)

・26路線 114往復/日 → 6/1時点 40往復

新千歳 10、仙台 10、成田 61、東京 3014、茨城 10、新潟 10、
小松 10、静岡 10、中部 125、大阪 53、関西 126、神戸 81、
岡山 10、広島 1、岩国 10、松山 1、高松 10、北九州 10、福岡 215、
長崎 10、熊本 10、宮崎 1、鹿児島 20、奄美 10、沖永良部 1、与論 1

就航先(県内)

・6路線 40往復/日 → 6/1時点 24往復
久米島 4、北大東 1、南大東 21、
宮古 149、石垣 158、与那国 1

※2020年夏ダイヤ
(2020年3月)

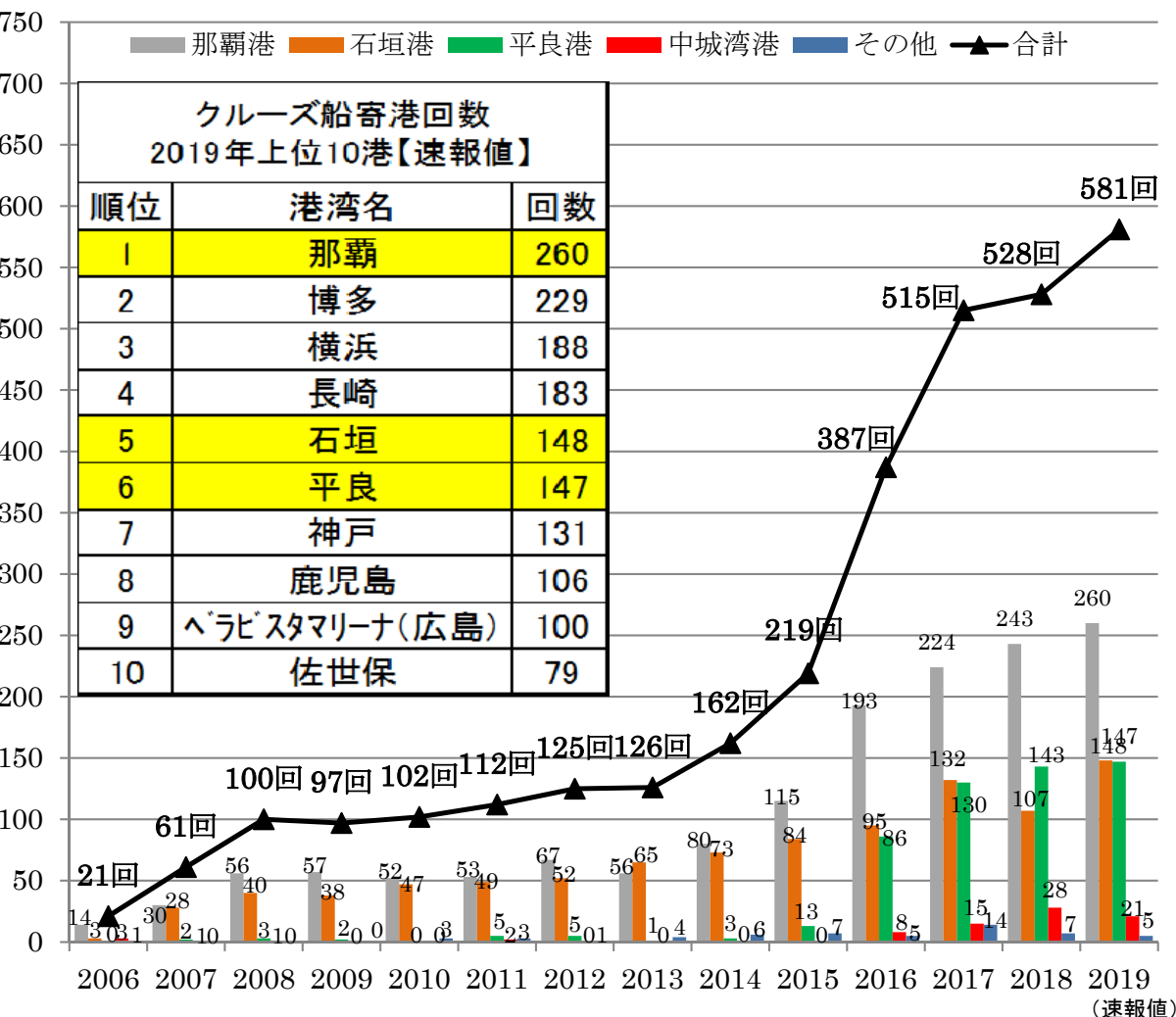
寄港増加・大型化する沖縄のクルーズ船



沖縄総合事務局

○2019年の沖縄県内へのクルーズ船寄港回数は前年(528回)から約10%増の581回を記録し、過去最多を更新しました。
○一方、全国の港湾別では、那覇港が初めて全国1位に躍進し、石垣港が5位、平良港が6位と前年同様、沖縄から3港がトップ10にランクインしています。なお、2020年は新型コロナウイルスの影響でキャンセルが相次ぎ寄港回数が減少傾向にあります。

(回) 【沖縄へのクルーズ船の寄港回数の推移】



※2020年1月9日時点。

※港湾管理者(沖縄県、那覇港管理組合、宮古島市、石垣市)からのヒアリングに基づき沖縄総合事務局が作成。

【沖縄県内へ寄港するクルーズ船の最近の動向】

・沖縄には、「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」(米国、16万トン級、4,180人乗り)等アジアに寄港する最大クラスの船舶が寄港するなど、県内においても大型化が進行している。

※沖縄に寄港したクルーズ船のうち12.5万トン級以上の船舶の割合
2016年:7.2%→2017年:14.4%→2018年:21.4%→2019年:24.3%

※沖縄に寄港しているその他の16万トン級クルーズ船
オペーション・オブ・ザ・シーズ:167,800トン、全長348m
ノルウェー جان・ジョイ:167,725トン、全長333.4m

・2017年7月26日に平良港に寄港した「ゲンティン・ドリーム」の消費額は、約1.3億円(乗客平均消費額 約3.8万円/人)。

※沖縄県宮古事務所による調査

・2017年9月8日に那覇に寄港した「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」の消費額は、約1.2億円。(乗客平均消費額 約2.5万円/人)

※沖縄総合事務局による調査



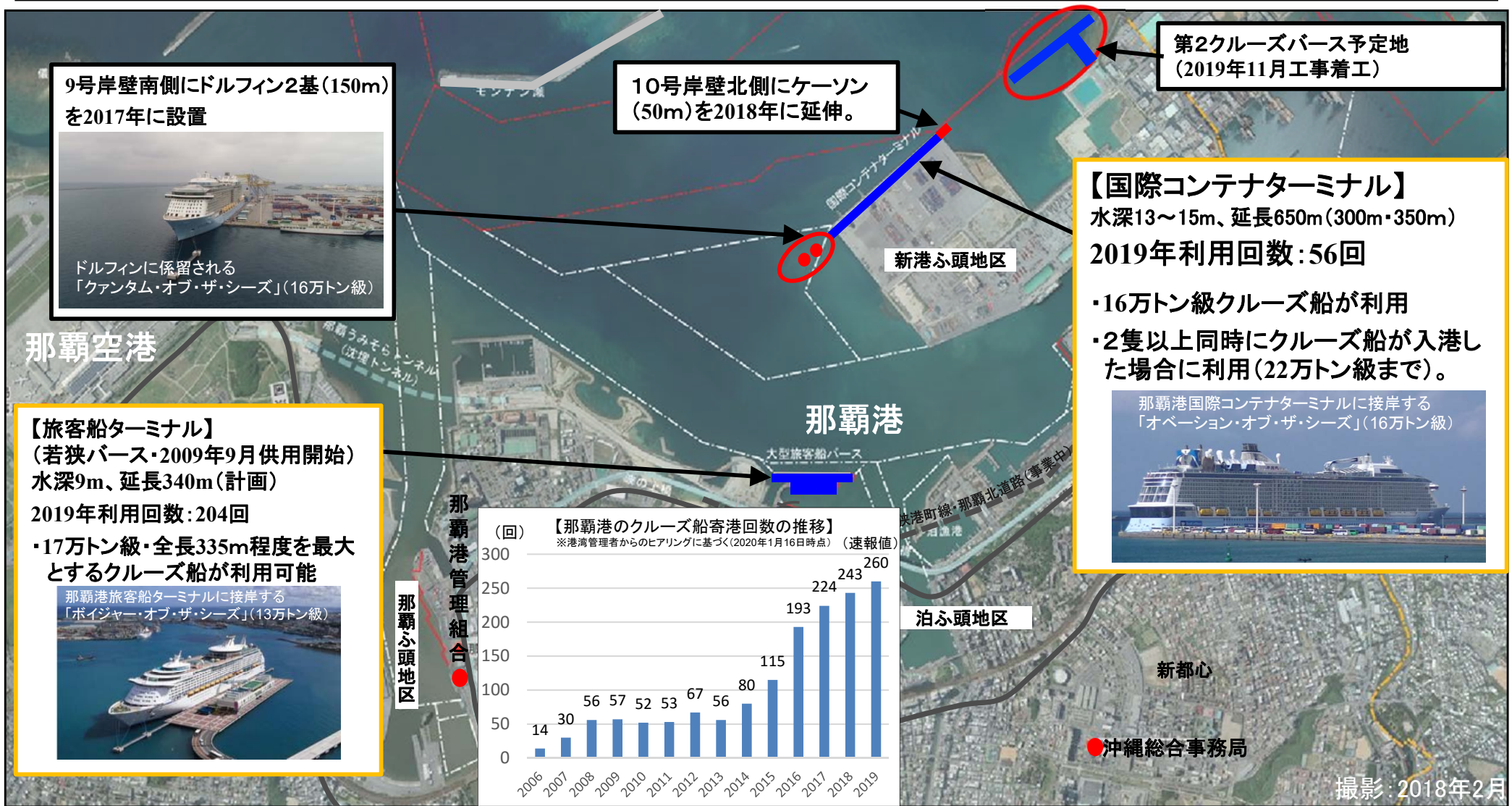
クアンタム・オブ・ザ・シーズ【那覇港】
(総トン数:168,666トン、全長347m)



ゲンティン・ドリーム【平良港】
(総トン数:151,300トン、全長335m)

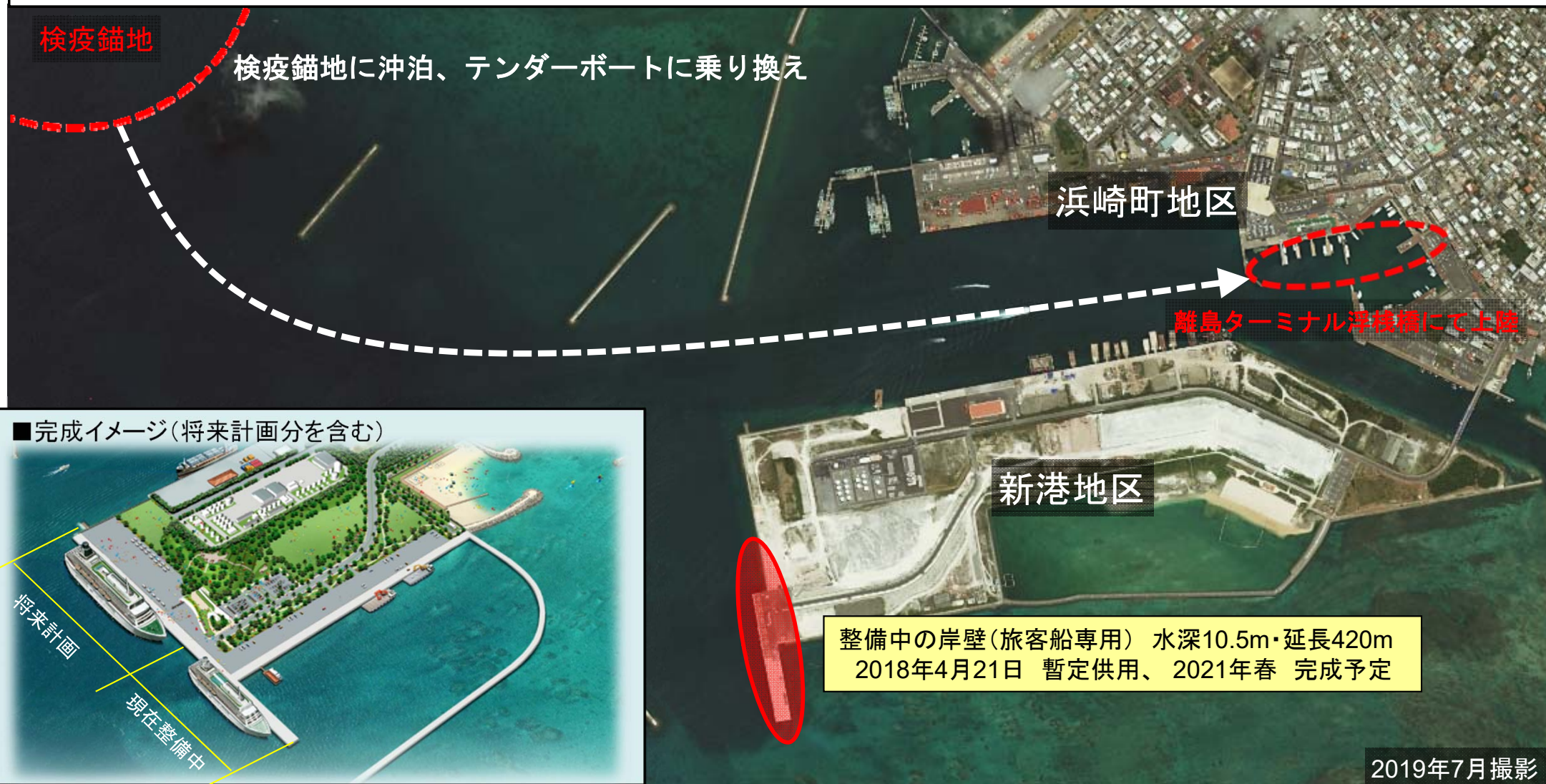
3.交通網の整備【那覇港のクルーズ船の受入れ(既存岸壁の活用)】

- 那覇港のクルーズ船について2018年は243回、2019年は260回寄港し過去最高となった。(2020年1月23日時点)。
- 那覇港へのクルーズ船の2隻同時寄港は2018年は53回、2019年は39回を記録。
- クルーズターミナルや物流ターミナルなど既存岸壁を活用し、寄港増・大型化に対応。
- 2019年3月に、国際旅客船拠点形成港湾として国土交通大臣の指定を受け、現在、国際クルーズ拠点の運用開始に向け、MSCクルーズおよびロイヤル・カリビアン・クルーズと連携して必要な取組を進めている。2019年11月に第2クルーズバース整備事業の工事に着工。



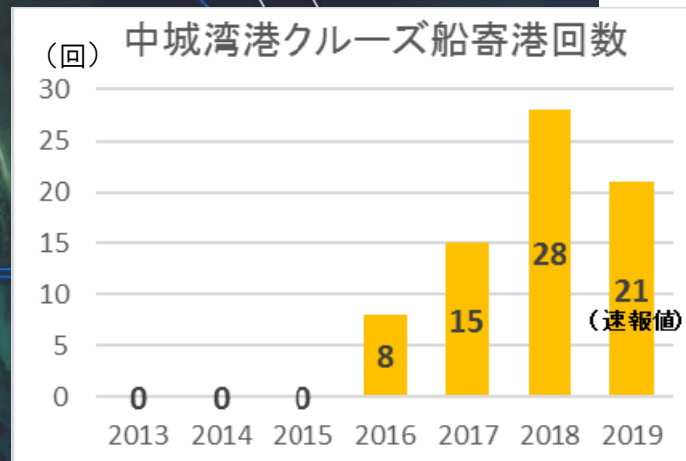
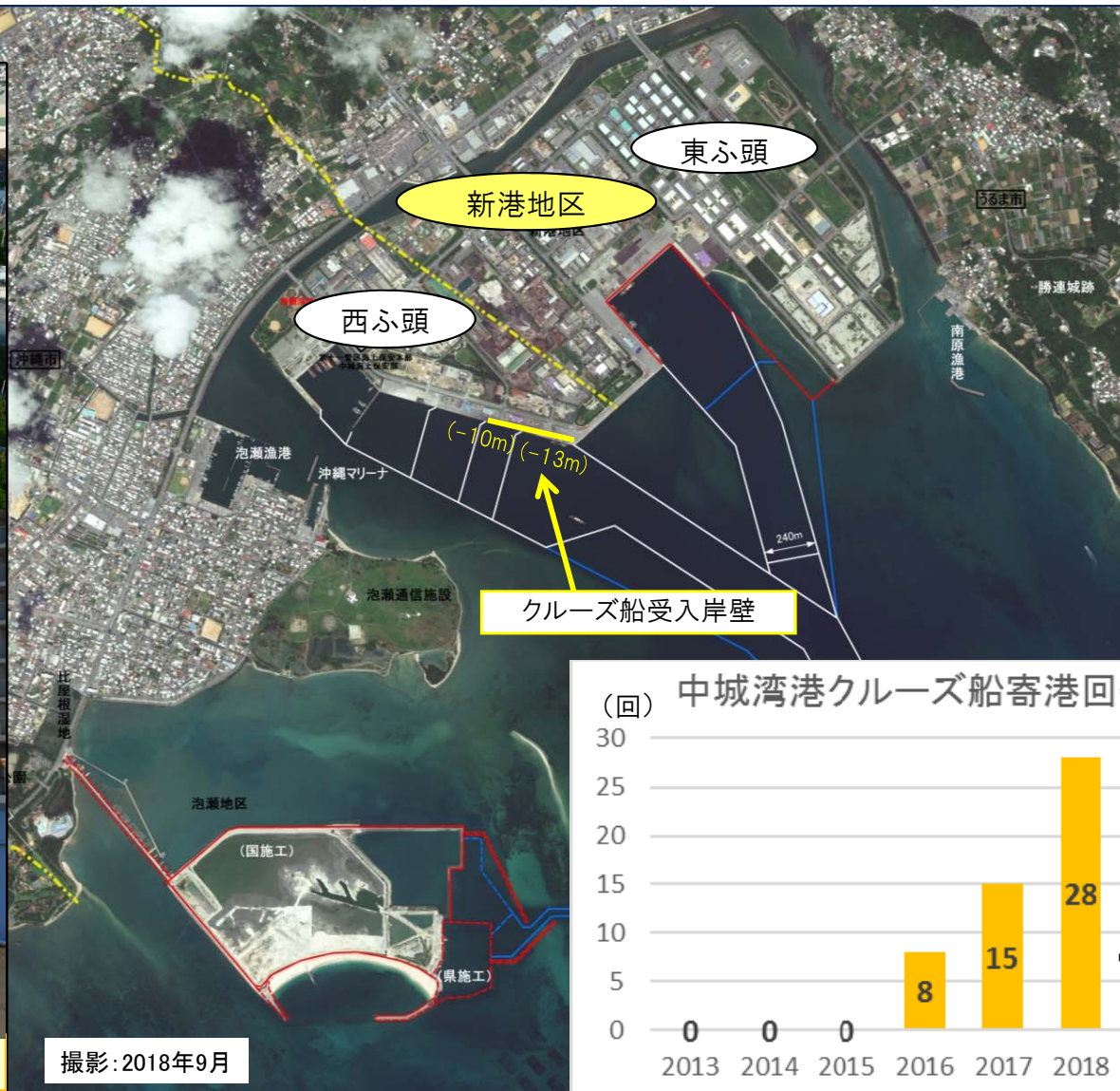
3.交通網の整備【石垣港のクルーズ船の受入れ】

- 石垣港ではクルーズ専用岸壁の整備に取り組んでおり、2018年4月21日に一部を暫定供用し、7万トン級までのクルーズ船を専用岸壁にて受入れ開始した。
- 近年のクルーズ船の大型化を踏まえ、石垣港地方港湾審議会(2017年5月17日)を経て岸壁スペックを変更し、2021年春には22万トン級のクルーズ船も受け入れ可能となる予定
- 現在、2隻同時に寄港した際や接岸できない大型クルーズ船が寄港する際には、沖泊で受け入れている。
※2019年沖泊回数:20回



3.交通網の整備【中城湾港のクルーズ船の受入れ】

- ・2016年に、新港地区西ふ頭において5年ぶりにクルーズ船が寄港した。
- ・2017年7月までは5万トン級までのクルーズ船が受け入れ可能であったが、近年のクルーズ船の大型化を踏まえ、岸壁の改良(係船柱や防舷材の強化)や航行安全検討を行い、2017年8月より16万トン級のクルーズ船が受け入れ可能になった。なお、2018年3月に「クアンタム オブ ザ シーズ(16万トン級)」が初寄港した。



クアンタム・オブ・ザ・シーズの寄港状況(2018年3月24日)

撮影:2018年9月

3.交通網の整備【竹富南航路の整備】

- 竹富南航路は、八重山諸島の中心である石垣島と小浜島、黒島等の周辺の島々を結ぶ唯一の航路である。住民の生活航路として、また観光航路として重要な役割を果たしている。
- 当該海域は浅瀬が多く日中のみの運航に制限されており、地域住民や来訪者が利用する船舶航行の安全を確保する必要がある。
- 国内でも有数のサンゴ礁海域である石西礁湖に位置するため、環境へ配慮した取り組みを行っている。

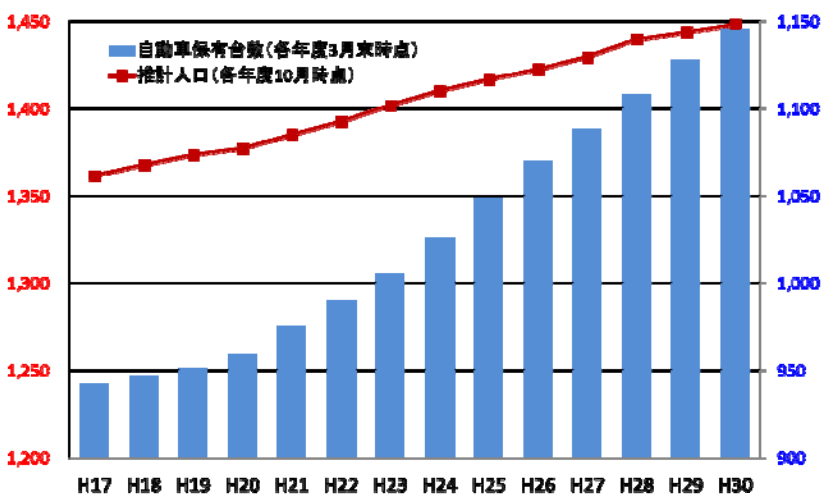
【竹富南航路】住民の生活航路、観光航路として島々を結ぶ唯一の航路



3.交通網の整備【沖縄の道路交通の現状(1)】

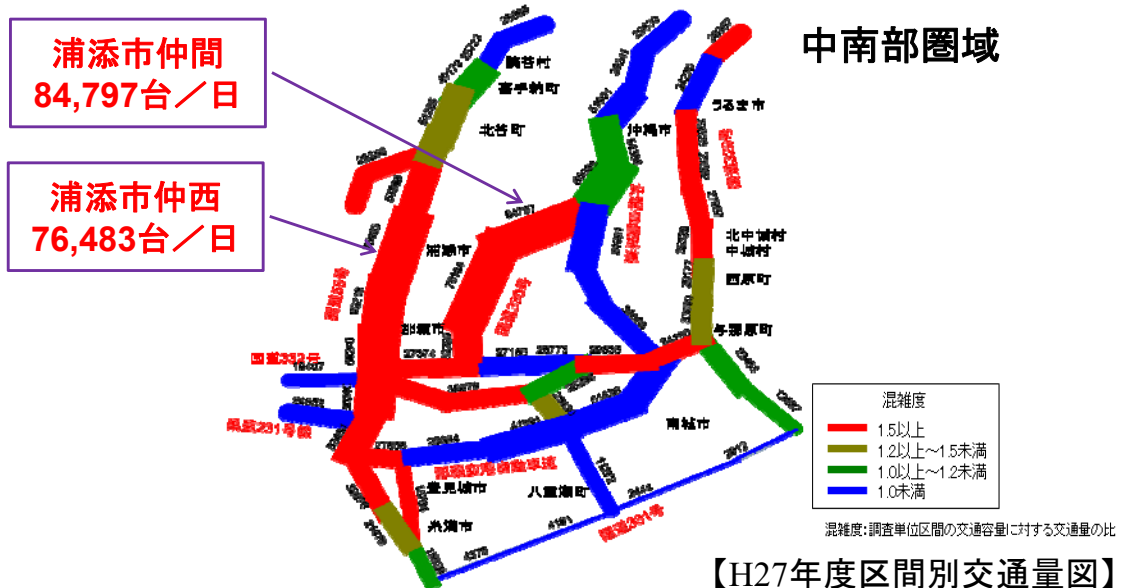
- 人口・自動車数の増加に伴い、中南部圏域の交通容量が不足しているため慢性的な交通渋滞が発生。
- 観光客も含め、県民の足が自動車に依存しており、道路ネットワーク整備とソフト対策が急務。

◆沖縄県の人口増加に伴い、自動車保有台数も増加



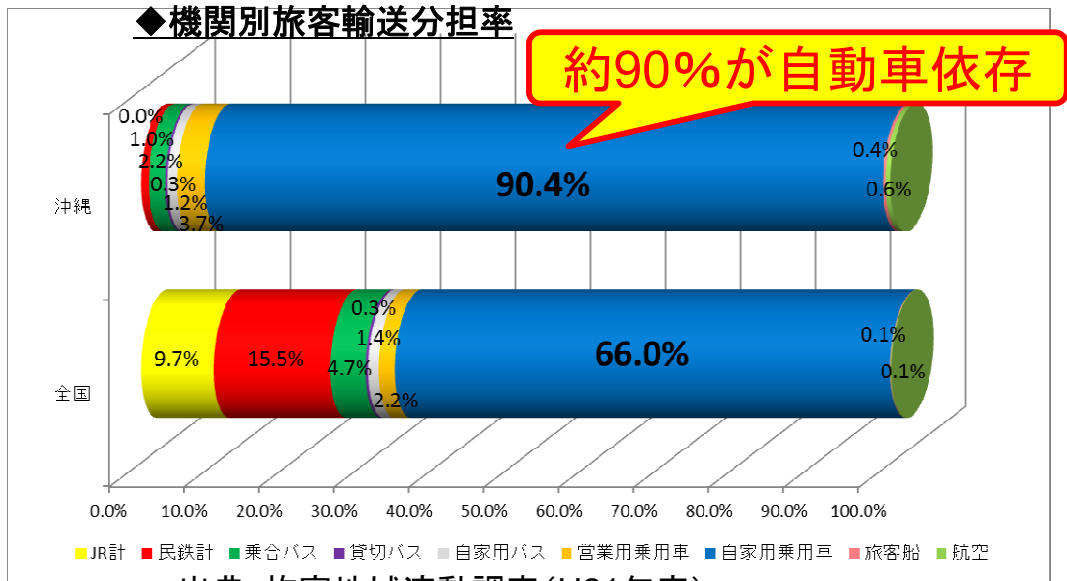
【沖縄県の推計人口と自動車保有台数の推移】

◆中南部圏域の主要幹線は容量オーバー



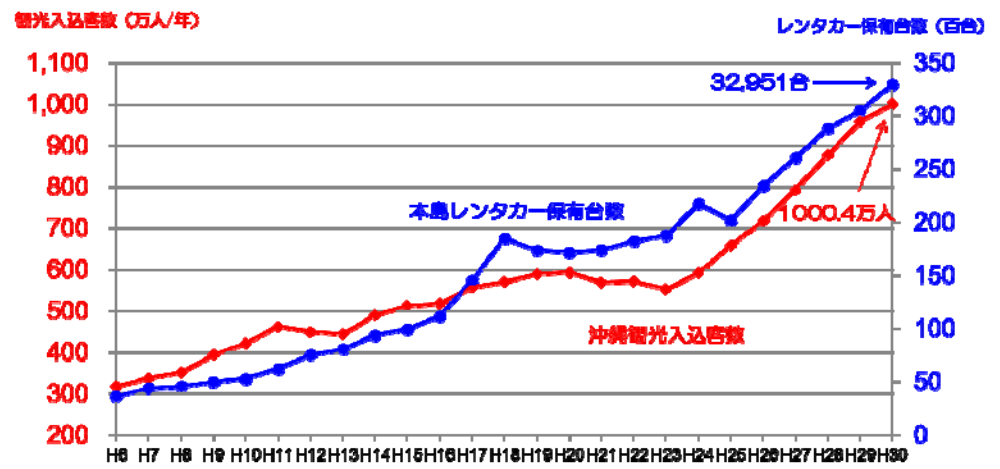
【H27年度区間別交通量図】

◆機関別旅客輸送分担率



出典: 旅客地域流動調査(H21年度)

◆観光客の移動手段はレンタカー

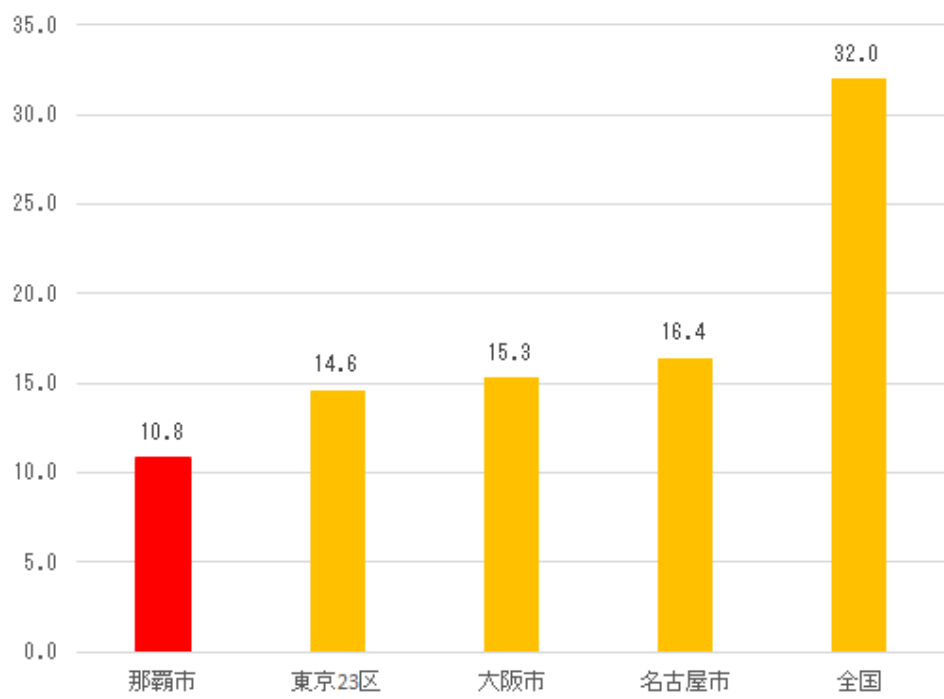


【県外観光入込客数とレンタカー保有台数の推移】

出典: 入域観光客統計概況(沖縄県)、運輸要覧・業務概況(沖縄総合事務局)

3.交通網の整備【沖縄の道路交通の現状(2)】

◆那覇市内の速度は全国ワーストクラス



【平日混雑時平均旅行速度の比較】

データ: H27全国道路・街路交通情勢調査



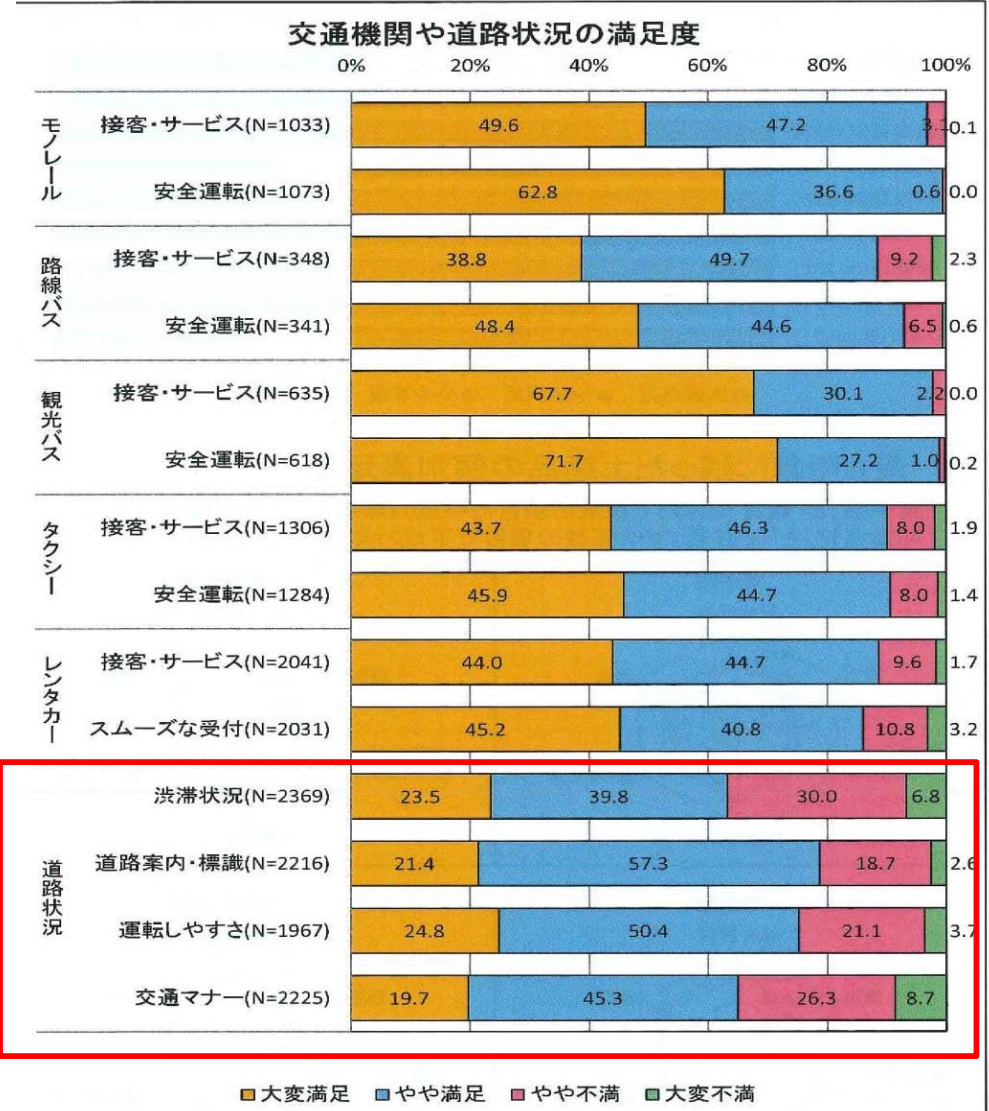
R58号 那覇市前島



R58号 那覇市泊

◆ 交通機関や道路状況の満足度

- 「道路状況」については全体的に不満を感じる比率が多い。特に『渋滞状況』や『交通マナー』では“やや不満”“大変不満”が3割を超える。
- 「観光バス」は『接客・サービス』『安全運転』ともに他に比べ“大変満足”の比率が多い。

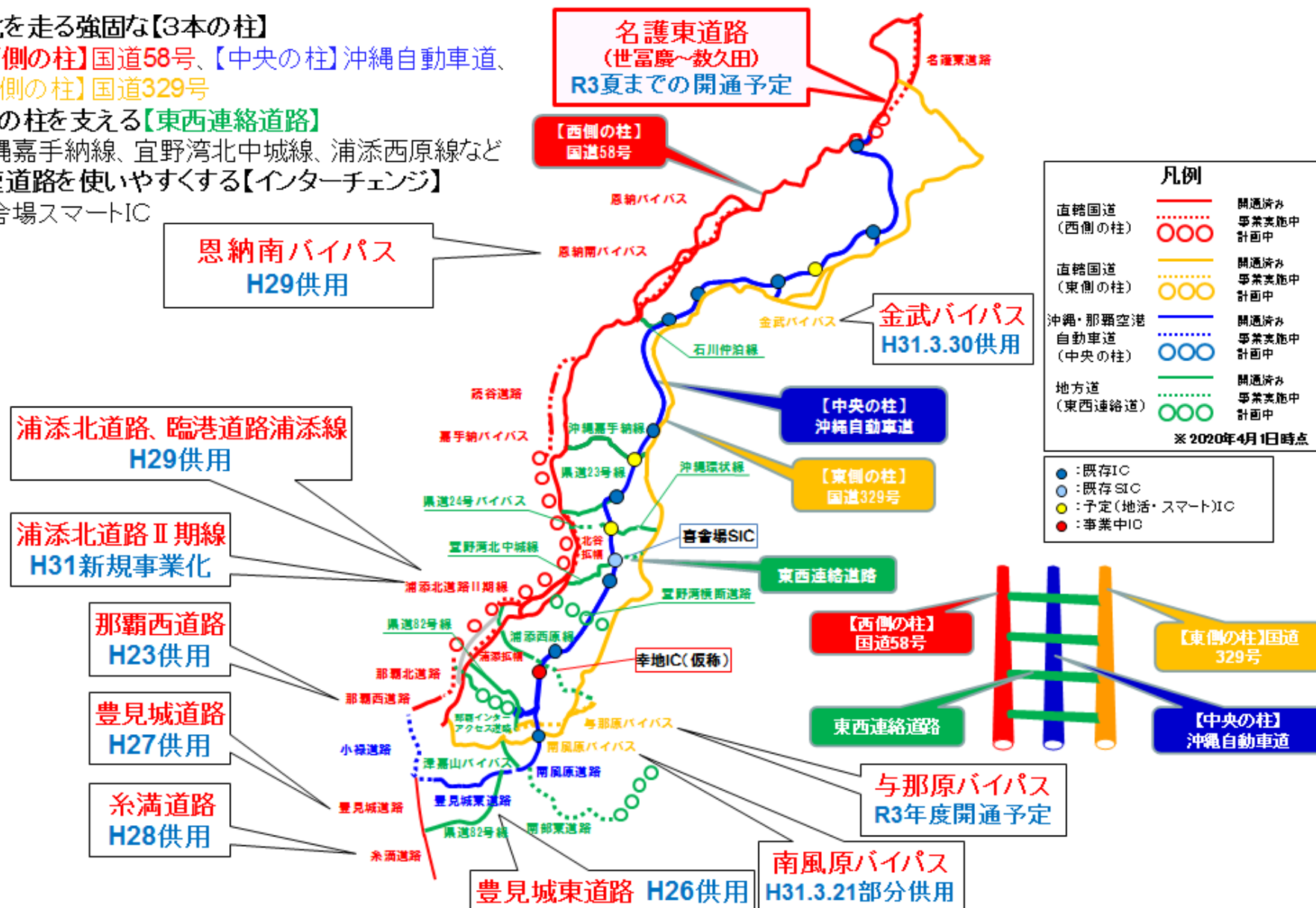


出典: 沖縄観光の満足度(平成24年度 観光統計実態調査(沖縄県))

3.交通網の整備【道路ネットワーク(ハシゴ道路)】

【ハシゴ道路】 ○長期間を要する事業ほど、段階的な進捗と効果の発現を示すことが重要
○3本柱において、交通配分にアンバランスが発生（沖縄自動車道への交通を配分）
○交通の集中する西海岸、特に2環状と放射道路が重なる箇所を重点整備

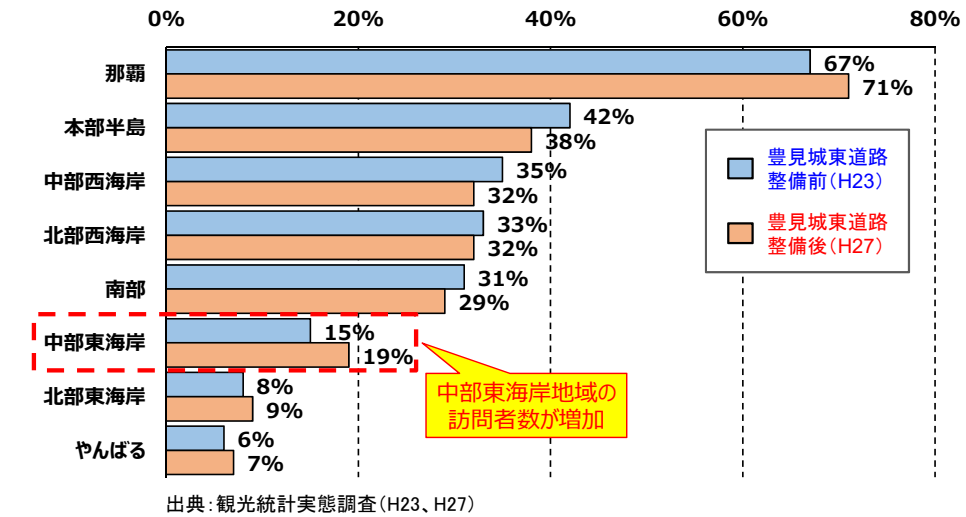
- 南北を走る強固な【3本の柱】
 - 【西側の柱】国道58号、【中央の柱】沖縄自動車道、
 - 【東側の柱】国道329号
- 3本の柱を支える【東西連絡道路】
 - 沖縄嘉手納線、宜野湾北中城線、浦添西原線など
- 高速道路を使いやすくする【インターチェンジ】
 - 喜舍場スマートIC



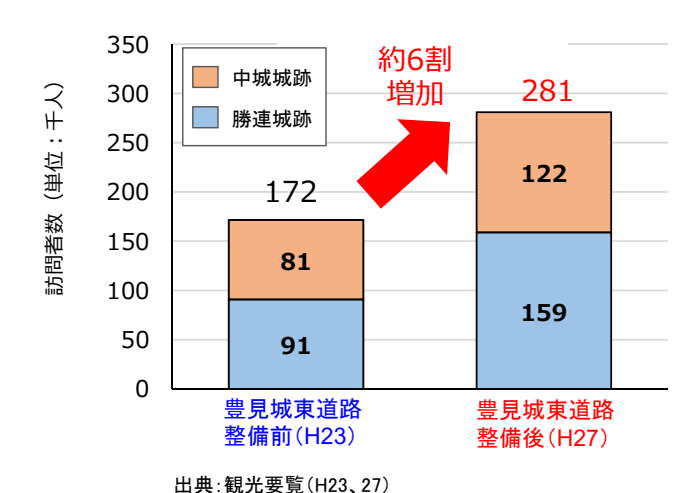
3.交通網の整備【観光振興を支援する道路整備】

- 世界遺産等の魅力ある観光地が点在する中部東海岸地域への訪問観光客が増加。(図1,2)
- 那覇空港から平和祈念公園等の南部地域に点在する観光地のほとんどが30分圏域となるほか、世界遺産や県恩納村(北部西海岸地域)が概ね60分圏域となることで、沖縄本島全域に点在している観光地へのアクセス性が向上され、さらなる観光産業への支援が期待される。(図3)

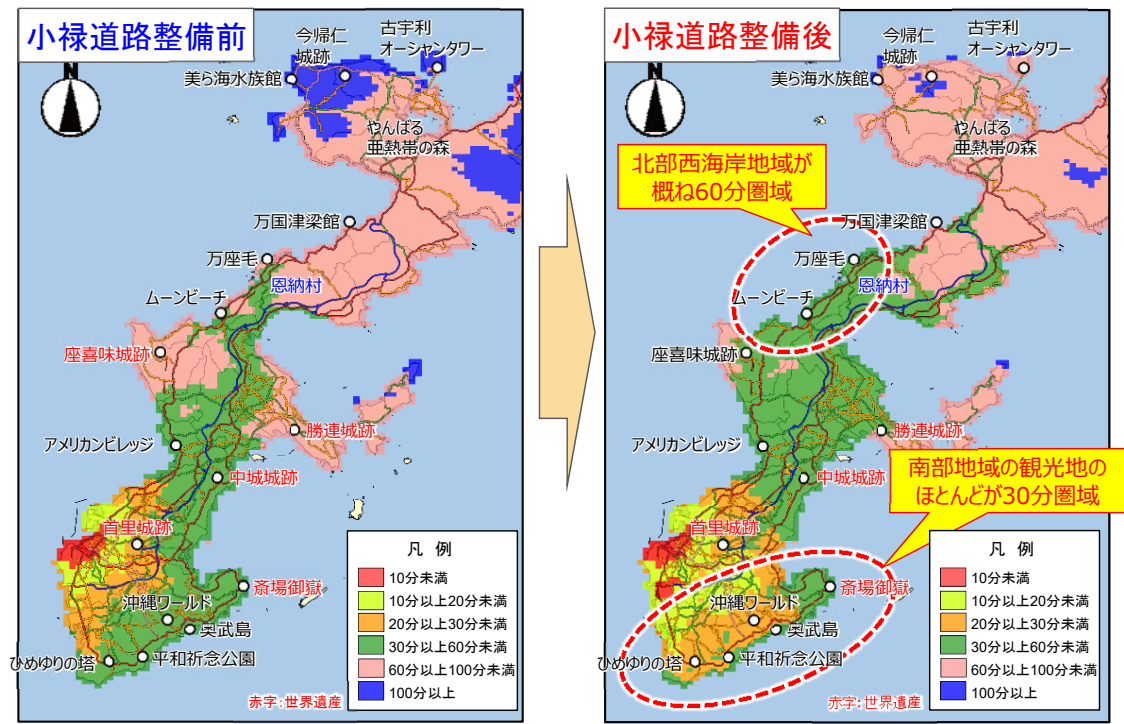
●(図1)観光客の地域別訪問者数



●(図2)東海岸の主要観光施設の訪問者数の推移



●(図3)那覇空港から観光地への所要時間圏域

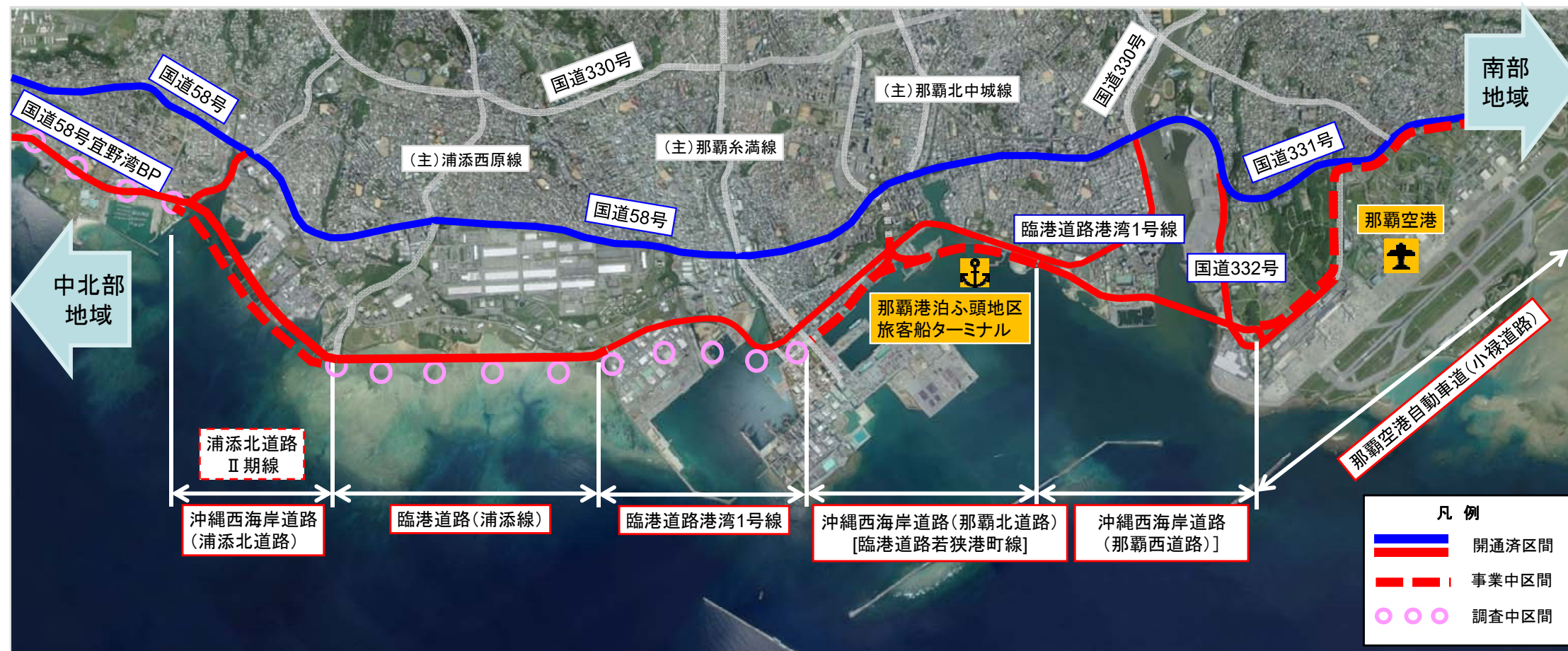


出典: 整備前: 民間プローブデータ(H30.9~H30.11)により旅行速度を算出
整備後: 小禄道路区間については、設計速度(80km/h)を使用



- 沖縄西海岸道路及び臨港道路により、西海岸地域の外郭環状道路を形成。
- 那覇空港や那覇港と主要拠点間のアクセス向上及び、那覇都市圏の渋滞の緩和により、地域経済の活性化に貢献する。

《事業位置図》



4.情報発信の拡充【観光情報満載の「道の駅」】

- 「道の駅」は、休憩やショッピングと合わせて、観光・地域情報を入手するのに最適。
- 「道の駅」は、地元が知る地域の名所等を活かした観光・地域情報発信のキーステーション。

○ 観光案内

- ・観光案内人が常駐し、北部地域全体の観光名所を情報提供。JNTO外国人観光案内所(カテゴリー1)の認定を受け、インバウンド受入に対応(「道の駅」許田)



○ 道路情報・観光情報の提供

- ・タッチパネルによる道路・観光情報提供など役に立つ情報が満載(各駅)



○ 離発着情報の提供

- ・那覇空港に近接しており、出発までの空き 時間を利用して、訪れる観光客も多いため、JAL、ANA等の飛行機発着情報などを提供(「道の駅」豊崎)

離発着情報提供

便名	出発地	定刻	変更	備考	到着地
901	東京	09:00	08:58	手荷物受取中	那覇
1762	石垣	09:05	08:57		那覇
872	久米島	09:15	09:02		那覇
511	東京	09:20	09:50		那覇
51	福岡	09:35	09:23		那覇
852	宮古	09:40	09:36		那覇
133	成田	09:40	09:25		那覇
600	石垣	09:45	09:43		那覇



- 展望台から極東最大の嘉手納基地への飛行機の離発着が一望でき、多くの観光客や修学旅行生が訪問(「道の駅」かでな)

嘉手納基地



道の駅の展望台

4.情報発信の拡充【進化する「道の駅」(ゲートウェイ型、地域センター型)】

- ドライバーの休憩施設として生まれた「道の駅」は、まちの特産物や観光資源を活かしてひとを呼び、地域にしごとを生み出す核へと独自に進化。
- 「道の駅」による地方創生拠点を形成し、「活力を呼び、雇用を創出、地域の好循環」を目指す。
- 「道の駅」の機能強化を図るため、地域活性化の拠点となる先駆的な取組を重点「道の駅」として平成27年度に道の駅「ぎのざ」、平成30年度に新たに道の駅「許田」を選定し、重点的に支援していく。

○ゲートウェイ型「地域外から活力を呼ぶ」

インバウンド観光（観光で人を呼ぶ）

外国人ニーズの高いサービスを提供、訪日観光を促進

外国人観光案内所、免税店、無料公衆無線LAN、EV充電設備、海外対応ATM設置 等

【現在の状況】

- ・無線LAN(ゆいゆい国頭、おおぎみ、許田、ぎのざ、かでな、喜納番所、豊崎、いとまん)
- ・EV充電器(ゆいゆい国頭、許田、いとまん)

無料公衆無線LAN



観光総合窓口（観光で人を呼ぶ）

地域の観光総合窓口として、地域の価値・魅力を向上

地域全体の観光案内 等

【現在の状況】

- ・北部地域全体の観光案内(許田)
- ・染め織物[ウーヅ染め]体験(豊崎)
- ・体験機会の窓口(ゆいゆい国頭)



地域全体の観光案内(許田)

地方移住等促進（移住で人を呼ぶ）

地方移住相談や移住体験ツアー窓口の設置、ふるさと納税の情報提供等により、移住を推進

地方移住のワンストップ窓口、ふるさと納税の情報提供 等

○地域センター型「地域の元気を創る」

産業振興（特産品で盛り上げる）

地域特産品を活かしたオリジナル商品開発・販売、観光資源のパッケージ化等による観光ニーズの呼び込み

地域特産品のブランド化、6次産業化、直売所の設置 等

【現在の状況】

- ・オリジナル商品開発・販売(許田)
- ・直売所の設置(ゆいゆい国頭、おおぎみ、許田、ぎのざ、かでな、豊崎、いとまん)



オリジナル商品の開発・製造・販売(許田)

地域福祉（「小さな拠点」をつくる）

多様な住民サービスを提供、地域を支える小さな拠点

診療所、役場機能の提供、地域公共交通ネットワーク乗継拠点、高齢者住宅の併設 等

防災（防災力を強化する）

災害時に高度な防災機能を発揮、地域の防災拠点化

広域支援の後方支援拠点、防災教育等

【現在の状況】

- ・支援物資集積所、非常時電源、非常階段の設置(許田)
- ・防災拠点施設を整備(いとまん)



非常階段(許田)

○地域活性化の拠点を形成する重点「道の駅」

【全国モデル「道の駅」】

・地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの(H26選定:6駅)

【特定テーマ型モデル「道の駅」】

・特定テーマについて、「道の駅」の質的向上に資する全国の模範となる取組を行い、その成果が認められるもの(H28住民サービス部門:6駅、H29地域交通拠点部門:7駅)

【重点「道の駅」】

・地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの(H26選定:35駅、H27選定:38駅、H30選定:15駅、R1選定:15駅)

【重点「道の駅」候補】

・地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの(H26選定:49駅、H30選定:14駅、R1選定:15駅)

